

○本県では、肥育牛経営体間での出荷成績(枝肉成績)のバラツキが大きい
ため、飼養管理技術の改善による成績の向上が課題。また、素牛価格の高騰により収益性が悪化しているため、肥育期間の短縮等によるコストの削減や安定的な素牛確保による飼養規模の拡大が課題。

○このため、関係機関とともに設立した「プロジェクトチーム(肉用牛肥育強化特別指導チーム)」により課題解決に取り組んだ。

○4農場で規模拡大が実現した。

具体的な成果

1 肥育牛飼養頭数の増加

■飼養規模拡大意向の経営体に対する各種支援により、4農場で預託制度を活用した大幅な飼養規模拡大が実現。

①A農場:320頭の規模拡大

H28.7～規模拡大のための導入開始

②B農場:120頭の規模拡大

H28.8～規模拡大のための導入開始

③C農場:200頭の規模拡大

H28.11～規模拡大のための導入開始

④D農場:320頭の規模拡大

H29.2～規模拡大のための導入開始



2 肥育前期高蛋白・粗飼料多給による肥育前期の発育改善

■「稲WCS-麦焼酎粕濃縮液混合飼料」を給与した雌牛では、肥育前期のDGが1.0を上回る良好な発育を示した。

普及指導員の活動

1 プロジェクトチームによる現地支援

■「肉用牛肥育強化特別指導チーム」(肥育技術の向上と増頭推進を図るため、県(畜産技術室、振興局、家畜保健衛生所、畜産研究部、農業革新支援専門員)、全農、JA、市町、県畜産公社等)を構成員として設立したプロジェクトチーム)により、事業(畜産クラスター事業・預託牛貸付制度等)を活用して増頭に取り組む肥育経営体に対して、現地巡回を実施して飼養管理改善指導を実施するなど飼養管理体系の確立を支援。

2 現地実証農場に対する飼養管理指導

■肥育牛の枝振りの向上を図るため、本県の試験研究成果である「稲WCS-麦焼酎粕濃縮液混合飼料」を活用した肥育前期の高蛋白・粗飼料多給の給与体系を実証する肥育経営体に対して、現地での飼養管理指導と併せて定期的な発育状況調査を実施。

普及指導員だからできたこと

・専門技術を持ち、試験研究機関の技術情報を知る普及指導員だからこそ、規模拡大に取り組む経営体や試験研究成果を活用した新たな取組みに対して、適切な支援を行うことができた。

・プロジェクトチームでの現地支援活動等、関係機関と連携して、肉用牛肥育経営の安定化に向けた取り組みを行うことができた。

大分県

生産技術の向上による肉用牛肥育経営の安定化

活動期間：平成28年度～（継続中）

1. 取組の背景

本県では、肥育牛経営体間での出荷成績（枝肉成績）のバラツキが大きい
ため、飼養管理技術の改善による成績の向上が課題となっている。また、近
年の素牛価格の高騰により1頭当たりの収益性が悪化しているため、肥育期
間の短縮等による飼養管理コストの削減を行うとともに、安定的に素牛を確
保して飼養規模を拡大していくことが課題となっている。

このため、関係機関とともに本県の肉用牛肥育経営体の経営安定を支援す
るために設立したプロジェクトチーム「肉用牛肥育強化特別指導チーム」で
課題解決に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

（1）プロジェクトチームによる現地支援

「肉用牛肥育強化特別指導チーム」（肥育技術の向上と増頭推進を図るた
め、県（畜産技術室、振興局、家畜保健衛生所、畜産研究部、農業革新支援
専門員）、全農、JA、市町、県畜産公社等）を構成員として設立したプロ
ジェクトチームにより、事業（畜産クラスター事業・預託牛貸付制度等）
を活用して増頭に取り組む肥育経営体に対して、現地巡回を実施して飼養管
理改善指導を実施するなど飼養管理体系の確立を支援した。



(2) 現地実証農場に対する飼養管理指導

肥育牛の枝振りの向上を図るため、本県の試験研究成果である「稲 WCS-麦焼酎粕濃縮液混合飼料」を活用した肥育前期の高蛋白・粗飼料多給の給与体系を実証する肥育経営体に対して、現地での飼養管理指導と併せて定期的な発育状況調査を実施した。



3. 具体的な成果（詳細）

(1) 肥育牛飼養頭数の増加

飼養規模拡大意向の経営体に対する各種支援により、4農場で預託制度を活用した大幅な飼養規模の拡大が実現した。

- ① A農場：320頭の規模拡大
(H28.7～規模拡大のための導入開始)
- ② B農場：120頭の規模拡大
(H28.8～規模拡大のための導入開始)
- ③ C農場：200頭の規模拡大
(H28.11～規模拡大のための導入開始)
- ④ D農場：320頭の規模拡大
(H29.2～規模拡大のための導入開始)

(2) 肥育前期高蛋白・粗飼料多給による肥育前期の発育改善

「稲 WCS-麦焼酎粕濃縮液混合飼料」を給与した雌牛では、肥育前期のDGが1.0を上回る良好な発育を示した。

4. 農家等からの評価・コメント

増頭に取り組む肥育経営体からは、飼養管理改善指導は飼養管理体系の確立に役立ったとの高い評価を得た。

5. 普及指導員のコメント

(地域農業振興課 広域普及指導班 主幹 石本 歩)

専門技術を持ち、試験研究機関の技術情報を知る普及指導員だからこそ、規模拡大に取り組む経営体や試験研究成果を活用した新たな取組みに対して、適切な支援を行うことができた。

6. 現状・今後の展開等

大幅な飼養規模の拡大に取り組んだ経営体では、平成30年度から本格的な出荷が開始されるため、プロジェクトチームによる重点的かつ継続的な指導により、経営の安定化に向けた支援を行っていく必要がある。

また、稲 WCS-麦焼酎粕濃縮液混合飼料を活用した肥育前期の高蛋白・粗飼料多給技術の現地実証については、平成30年度から実証牛の出荷が始めることから、実証の成果を明らかにし、地域での普及・定着に向けて取り組みを進めて行く必要がある。